

第9回 Society5.0 と地域建設業

和合館工学舎 学舎長 今西肇

1. Society 5.0

第5期科学技術基本計画（2016年～2020年）において我が国が目指すべき未来社会の姿として提唱されたのが、スマート社会（Society 5.0）です。情報社会（Society 4.0）に続く、新たな社会を指すものです。サイバー空間（仮想空間）とフィジカル空間（現実空間）を高度に融合させたシステムにより、経済発展と社会的課題の解決を両立する人間中心の社会を意味します。

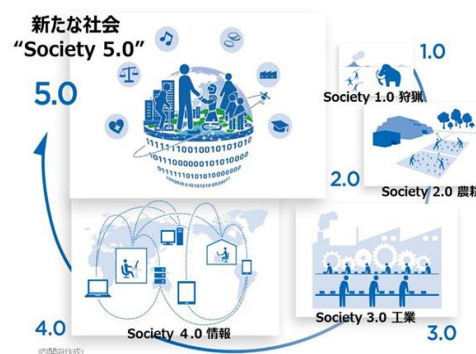
Society 5.0 で実現する社会では、IoT（Internet of Things）で全ての人とモノがつながり、様々な知識や情報が共有され、新たな価値を生み出します。また、人工知能（AI）により、ロボットや自動走行車などの技術で、少子高齢化、地方の過疎化、貧富の格差などの課題が克服されます。

2. 科学技術・イノベーション基本計画

2020年6月、Society 5.0の実現に向けて、科学技術基本法の改正が行われました。法律の名称を「科学技術・イノベーション基本法」として、「人文・社会科学」に係るものを、「科学技術」の範囲に位置づけるとともに、「イノベーションの創出」を柱の一つに据えました。政策実現のためには、2021年度から5年間で、政府の研究開発投資の総額を約30兆円、官民合わせた研究開発投資の総額を約120兆円として計画されています。

政策の柱は次の通りです。

- (1) 国民の安全と安心を確保する持続可能で強靱な社会への変革
- (2) 知のフロンティアを開拓し価値創造の源泉となる研究力の強化
- (3) 一人ひとりの多様な幸せと課題への挑戦を実現する教育・人材育成



https://www8.cao.go.jp/cstp/society5_0/より引用

3. 防災・減災、国土強靱化のための5か年加速化対策

科学技術・イノベーション政策の一つとして、防災・減災、国土強靱化のための5か年加速化対策が2021年度から始まろうとしています。重点的対策数123項目、事業規模は15兆円程度です。内訳は、①激甚化する風水害や切迫する大規模地震等への対策、②予防保全型インフラメンテナンスへの転換に向けた老朽化対策、③国土強靱化に関する施策を効率的に進めるためのデジタル化等の推進です。ソフトとハードの対策を一体として、省庁連携、官民連携や役割分担が求められています。地域の建設業も、地域を熟知しているからこそ、地域のモノづくりからコトづくりのためのヒトづくりをはじめましょう。

4. 人材育成

基本計画では、一人ひとりの多様な幸せと課題への挑戦を実現するために、教育初期段階からのSTEAM教育^{※1}やGIGAスクール構想^{※2}の推進を目指しています。さらに、リカレント教育を促進する環境・文化の醸成も重要視されています。

和合館工学舎は、社会人技術者のためのリカレント教育 with ICT をこれからも推進します。

^{※1} STEAM教育は、科学 (Science)、技術 (Technology)、工学 (Engineering)、アート (Art)、数学 (Mathematics) の5つの領域を対象とした理数教育に創造性教育を加えた教育理念。知る (探究) とつくる (創造) のサイクルを生み出す、分野横断的な学びを意味します。

^{※2} GIGAスクール構想は、1人1台の端末を用いて個別に最適化した授業をおこない、そのために高速で大容量の通信ネットワーク整備をゴールとした、教育環境の整備や最適な教育を実現させるための構想です。